

## 第6回 廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

### 1. 日程

日時:平成26年2月18日(火) 8:30~11:30

場所:福島グリーンパレス 瑞光東の間

### 2. メンバー

- 政府: (議長): 赤羽原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)  
原子力災害現地対策本部: 熊谷副本部長  
復興庁: 豊島次長(福島復興局)  
文部科学省: 西田放射性廃棄物企画室長  
農林水産省: 中津水産庁研究指導課長  
経済産業省: 糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、上田対策官  
国土交通省: 渥美河川環境課長  
環境省: 宮崎水環境課長  
廃炉・汚染水対策現地事務所: 野田所長、木野参事官、遠藤調整官、  
有賀対策官、三木アドバイザー
- 東京電力: 相澤副社長、石崎福島復興本社代表、高橋1F 安定化センター所長、  
岩城1F 安定化センター副所長
- 福島県(オブザーバー): 古市生活環境部次長
- 規制当局: 原子力規制庁: 山本審議官、小坂地域統括管理官

### 3. 結果概要

#### (1) 赤羽副大臣御挨拶

○昨日、第1回の廃炉・汚染水対策福島評議会を開催した。この会議には県をはじめとした自治体の首長の皆様、関係団体の代表の皆様等にご参集いただき、廃炉・汚染水対策の現状をご報告させていただくとともに、情報提供、コミュニケーションのあり方について様々なご意見を頂戴した。

○その中で、廃炉の工程が1日遅れることが、福島県民200万人の一日一日に関わってくる問題であるという重要なご指摘を頂戴し、改めて、心して取り組まなければならないと感じた。

○今回は、前回会議で議論があったタンクのリプレース計画について報告がなされる予定であ

る。これは喫緊の課題であり、不測の事態が生じた場合の緊急時対応も含め、しっかりと議論を進めたい。

○規制庁から指導のあった敷地境界の実効線量についても、報告がなされる予定。今月初めには何件か水の漏えい事象が発生しており、配管の凍結が原因と考えられる事象も発生しているため、安全の対策を講じる必要があり、その点も東京電力から報告がある。

○ここ数日、全国的に大雪に見舞われており、福島第一原発の現場作業員の皆様にとっても大変厳しい労働環境となっているが、そういったところにも心を配りながら、安全第一で作業を進めることができるように、しっかりと取り組んでまいりたい。

○今回も活発なご議論をいただき、実のある会議になるようお願いしたい。

## (2)緊急対策等の進捗状況報告

○東京電力から、汚染水に関わる現場進捗状況として、2・3号機海水配管トレンチの浄化・止水と護岸エリア対策の状況、港湾内・外および地下水の分析結果、多核種除去設備の試験状況等について説明。

○上記説明を受け、主に以下のような議論が行われた。

・全βの数え落としやストロンチウムの問題が出ているが、サンプリングや分析の作業が非常に多くなってきており、現場でも厳しい状況になっている。地下貯水槽等、データにあまり変動がないところは合理化したらよいのではないかと規制庁から現場では話をしているが、なかなか合理化に向けた話が出てきていない。分析に係るリソースの部分はマネジメントの問題もあるため、必要な作業にはしっかりとリソース投入しつつ、合理化できるところは合理化を図っていただきたい。

・堰からの漏えいについて、同じような継ぎ目からの漏れが続いているため、最終的なできあがりの確認だけでなく、施工のプロセスも重要であるため、施工管理のあり方も見直していただきたい。

・ALPSのライニングは稼働率を向上させることが目的で行っているもの。資料には、ライニングを行ったことによって稼働率がどの程度向上するか、あるいは残っている論点などを記載すると、全体像に対する今やっていることの位置づけがはっきりするのではないかと。

・地下水の分析も報告いただいているが、例えばボーリング1つ掘る場合でも、仮説を立て、結果の解釈を記載するようにしていただきたい。

・地下水濃度測定について、従来からやっている1-2号機間、2-3号機間、3-4号機間などは、以前からやっていることもあって目的が明確でないところもあるため、次回、目的を明確にしてご説明をいただきたい。

### (3) 現地調整会議で提示された課題への対応の検討

○東京電力から、4分野(タンク対策、循環ライン信頼性向上対策、自然災害対策、漏えい防止対策)について、対応方針、対応に当たっての検討課題、スケジュール等について説明があり、議論が行われた。主なコメントは以下のとおり。

- ・堰の対応について、現在堰の中に雨水が相当量たまっていると思うが、堰の増強とあわせて、雨水の排水をどうするかを明確にした対策をとっていただく必要がある。基本は堰の中の雨水はしっかり排水をし、雨水をためないというのを明確にさせていただかないと、堰の増強だけでは間に合わない。
- ・タンク計画については、いろいろ議論する中で成果は出てきたという印象。ただし、前提条件の部分で、地下水バイパスは中長期的には重要だが、建屋の水を5000トンためるという初期投資が必要。その初期投資の時期をいつにするかという問題がある。
- ・地下水バイパスはできるだけ早急を実施すべき一方で、感度分析が必要。地下水バイパスが地下水の動態にどう影響するのか、シミュレーションは行っているものの、実際に動かして確認する必要がある。少しずつ様子を見ながら動かして、モデルとどの程度合うかを確認しつつ、中長期的な本格運用を考えていくべき。地下水位への感度解析をせずに一気に5000トン建屋から抜くということには疑問がある。
- ・汚染水処理対策委員会の下の地下水のサブグループとも連携して検討進めるべき。
- ・フランジ型タンクの補修はどの程度の範囲行うのか。リプレイス計画との関係で早くリプレイスするものについては補修の必要はないはずなので、効率的な作業計画とする必要がある。
- ・追加で設置するALPSについても、この場で一度ご説明をいただきたい。
- ・フランジ型タンクは過去側面と連結部からの漏えいもあったことも考える必要がある。底面補修については、堆積物があったり底面が波打っていたりということが想定されるため、施工の品質管理を元請けにやらせるといった仕様を決めておくことが極めて重要。
- ・港湾内の付け替え排水路については、C排水路以外のものも対応検討いただきたい。
- ・建屋止水については、どこをどういった手順で進めるかという全体像を早く示さなければならぬ。タンクと同様、止水のチームをつくって対応進めた方がよいのではないか。
- ・資料にはないが、凍土壁の実証事業についても、世の中の関心も高いと思われるので、情報提供いただきたい。凍土壁については、汚染水処理対策委員会や地下水のサブグループにも情報を入れていくべき。凍土壁については、関係者間の論点だしを早急に行うべき。

○上記コメント等を踏まえ、建屋止水についてチームを設置し、全体像を検討することが決定した。

#### (4)敷地境界における実効線量について

○東京電力から、発電所敷地境界における実効線量の制限の達成に向けた対応の検討について説明が行われた。

- ・敷地境界1mSv／年の主旨は、福島第一原発の廃炉に伴う追加的な放射性物質の放出量を如何に低減するかということにある。
- ・排水路については、港湾内付け替えの流末部をどうするかという話もあるが、できる限り早急に排水路そのものもきれいにしていきたい。
- ・住民帰還という面では、福島第一原発からのダストの影響が論点となっている。
- ・データの信頼性を確保するためにはクロスチェックが必要。国としての関与をご検討いただきたい。
- ・国のクロスチェックについて、海洋モニタリング等は地点数を増やすなど、充実を図る対策をとっている。また、IAEAの調査団にモニタリングの信頼性についてコメントをいただいております。データの客観性、信頼性の確保については引き続き対応していく。

#### (5)次回以降の日程

○次回は3月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。